

# 人間行動学科

## 心理学コース

Psychology

# 人間行動学科

## 社会学コース

Sociology

### 心理学コースについて

心理学は、人間の様々な行動から、目に見えない心の働きについて科学的に明らかにすることを目的としている学問です。心理学の問いは多岐にわたります。たとえば、同じ状況におかれても、人によって行動は異なります。このような個人差はなぜ生じるのでしょうか。また、人は集団の中に入ると1人のときとは違った振る舞いをします。それはなぜでしょうか。人間は経験によって変わります。そこにはどのような法則があるのでしょうか。人間の記憶や推論は、どのくらい正確なのでしょう。人間と動物はどこが違うのでしょうか。

心理学コースは、このような問いに答えるために実験や調査を行ないながら、心とは何かを考えるとこです。心について探究したいと考えている人ならどなたでも歓迎します。

### 社会学コースについて

社会学は、産業革命などが起こった19世紀ごろに登場した学問で、主に社会問題やその解決方法の研究を行なうところから始まりました。その後、社会にかかわる様々なテーマをあつかうようになり、今では非常に広範な学問となっています。社会学コースでは、インタビューや実地調査、データ分析などの方法論はもちろんのこと、文学部特有である人文系のテーマについても詳しく学ぶことができます。市立の大学であるため、大阪市について詳しく研究できることも本コースの特色であると言えます。また、社会調査士の資格を取るための授業も充実しています。学生それぞれの興味関心が、自由で幅広い学びによりカバーできるのも社会学コースの魅力です。

### 先生の研究

私の研究は多岐にわたっていますが、主なテーマは社会問題です。中でも、現代の貧困問題について詳しく研究しています。貧困は、バブル期には全く話題になっていなかったのですが、ここ数十年で重大な社会問題として現れ始めました。そこには、非正規雇用などの労働問題や、地域による格差問題などの諸問題もかかわっており、そういう観点も含めて研究を進めています。また、貧困層には鬱の症状を抱えた人が多くみられるという実態にも着目し、貧困がもたらす被害やその対策としての政策なども研究対象としています。これらの研究を裏付けるデータを収集・分析するため、私自身でインタビューやアンケートなどの実地調査に赴くこともあります。



教授 川野 英二 先生

社会学コースを選んだきっかけは、2回生まで学んできた様々な社会学の知識や見方、考え方をもち、ある授業では統計プログラムを使って分析をしています。分析では事前で仮説を立てて考え、それが実際に検証されるかどうかを調べます。予想とは違った結果になることもあり、意外な発見ができました。

○社会学コースの雰囲気・PR  
答えをすぐに出すのではなく、常に問いかけさせるといふ点でこのコースは魅力的だと思います。以前はニュースや社会問題を「あ、そうなんだ」と聞き流していましたが、それらの問題と僕との距離が縮んだように、よりリアルに感じられるようになりました。

### 先生の研究



教授 池上 知子 先生

私の専門は社会心理学です。社会心理学は対人関係や集団現象にかかわる問題をあつかいます。私は、人が他者や集団、様々な社会的出来事などをどのように理解し、記憶しているのかを研究しています。他者や集団に対して抱く印象には、偏りや誤りがみられます。それがなぜなのか、その心理学的メカニズムを明らかにすることが研究の目標です。偏りや誤りを生み出す要因の1つに偏見や差別意識があります。それゆえ、最近では、なぜ社会から偏見や差別がなくならないのか、なぜ人々は平等主義の理念と矛盾する現実を変えようとしなないのか、その深層にある心理に迫りたいと思っています。偏見や差別意識は、人間の意志や意識的統制を超えて私たちの思考や言動に影響をおよぼします。これをいかにして克服し、万人にやさしい社会を実現できるかが、今の私の関心事です。

### 安西さんへのインタビュー



3回生 安西 正宏 さん

社会学コースを選んだきっかけは、社会でよく当たり前のこととして考えられている現象に対して、「本当にそうなのか？」と絶えず問い直していく点にすごく魅力を感じました。このような疑問に対してアンケートやフィールドワークを行なって調査してみたいと思い、社会学コースに進みました。

○今のコースでの学び  
2回生まで学んできた様々な社会学の知識や見方、考え方をもち、ある授業では統計プログラムを使って分析をしています。分析では事前で仮説を立てて考え、それが実際に検証されるかどうかを調べます。予想とは違った結果になることもあり、意外な発見ができました。

### 久徳さんへのインタビュー



3回生 久徳 廣代 さん

社会学コースを選んだきっかけは、2回生まで学んできた様々な社会学の知識や見方、考え方をもち、ある授業では統計プログラムを使って分析をしています。分析では事前で仮説を立てて考え、それが実際に検証されるかどうかを調べます。予想とは違った結果になることもあり、意外な発見ができました。

○社会学コースの雰囲気・PR  
答えをすぐに出すのではなく、常に問いかけさせるといふ点でこのコースは魅力的だと思います。以前はニュースや社会問題を「あ、そうなんだ」と聞き流していましたが、それらの問題と僕との距離が縮んだように、よりリアルに感じられるようになりました。

### 教員紹介

※2019年度時点

**池上 知子 教授 Tomoko Ikegami**  
社会心理学：対人認知、偏見とステレオタイプ、社会的アイデンティティと社会システムの関係  
『格差と序列の心理学—平等主義のパラドクス—』(ミネルヴァ書房、2012)

**川邊 光一 准教授 Kouichi Kawabe**  
生理心理学：高次認知機能（特に学習・記憶）の脳内機構、精神疾患動物モデルに関する行動薬理学的研究  
“Effects of early postnatal MK-801 treatment on behavioral properties in rats: Differences according to treatment schedule”, *Behavioural Brain Research*, Vol. 370, (2019)

**山 祐嗣 教授 Hiroshi Yama**  
認知心理学：推論、思考の潜在性・顕在性、比較文化研究  
『「生きにくさ」はどこからくるのか—進化が生んだ二種類の精神システムとグローバル化—』(新曜社、2019)

**佐伯 大輔 准教授 Daisuke Saeki**  
行動分析学：判断、意思決定、選択、推論  
『価値割引の心理学—動物行動から経済現象まで—』(昭和堂、2011)

### 卒論タイトル例

- ◆モラルジレンマ課題における課題文が判断に与える影響
- ◆ラットの虚記憶に及ぼすMK-801の効果
- ◆若者のグループLINE内におけるコミュニケーション行動の規定因に関する研究

### 卒論タイトル例

- ◆虐待の世代間連鎖とその支援の実態
- ◆日本における韓国系プロテスタント教会に関する認識考察
- ◆ライトノベルの表紙における女性像—アイキャッチャーとしての「美少女」—

### 教員紹介

※2019年度時点

**進藤 雄三 教授 Yuzo Shindo**  
理論社会学・医療社会学・家族社会学を専攻。現在の主な研究テーマは現代社会理論・医療専門職論・死の社会学研究。  
共著『社会学入門』（ミネルヴァ書房、2017）

**伊地知 紀子 教授 Noriko Ijichi**  
朝鮮地域研究・文化人類学。  
『消されたマッコリ—朝鮮・家醸酒文化を今に受け継ぐ—』(社会評論社、2015)

**石田 佐恵子 教授 Saeko Ishita**  
メディア文化研究・映像社会学。  
分担執筆 *A Companion to Celebrity* (Wiley-Blackwell, 2016)

**川野 英二 教授 Eiji Kawano**  
社会政策の社会学・比較社会学。  
共訳 セルジュ・ボーガム著『貧困の基本形態—社会的紐帯の社会学—』(新泉社、2016)

**笹島 秀晃 准教授 Hideaki Sasajima**  
都市社会学。  
『ニューヨーク市 SoHo 地区における芸術家街を契機としたジェントリフィケーション：1965-1971年における画廊の集積過程に着目して』『社会学評論』67(1) 2016

### 心理学コースにとって「物語」とは？

私は、心理学は人間の心に関する「物語」を綴る学問だと考えています。この物語の主人公は「心」です。この「物語」には、主人公が引き起こす事件の真相を追い求める推理小説のような趣があります。「心」はなぜそのような事件を起こしたのか。何が原因なのか、背景に何があるのか、いったい何のためにそのようなことをするのか…心理学者は、さながら探偵のようなものです。そして幾多の困難にぶつかりながらも、解決の糸口を1つ、2つと見出し、解きほぐすかと思いきや、ドンデン返しに遭い、また振り出しに戻らざるを得なくなります。この「物語」は、なかなか結末が迎えられませんが、「心」は、複雑で奥が深く、どこまで進んでも答えが見えないやっかいなものだからです。この終わりのない「物語」を読み解く作業が心理学を学ぶということかもしれませぬ。(文・池上先生)

### 社会学コースにとって「物語」とは？

社会学は「近代社会の自己反省である」という言い方がありますが。社会学は19世紀に誕生して以来、長いあいだ「近代」の理念—自由や平等、人権、社会の進歩—がじつさいにどれだけ実現されているのかを問題としてきました。所得格差や学歴達成の不平等、ワークライフバランス、男女の役割割分業などの研究は、そうした理念を前提とした研究です。しかし欧州では70年代から、日本では90年代ごろから「近代の大きな物語」が終焉した」と言われるようになり、社会学のテーマも様変わりし、個人の生活史や趣味などの身近な事柄、「小さな物語」に関心が寄せられるようになっています。それは学生の関心にも顕著に現れています。

ただこの10年くらいのあいだ、格差や非正規労働、高齢化、家族の変容など新たな課題に社会学がどのように対応するのが問われています。そのとき社会学が参照するのは、やはり自由や平等などの近代の「大きな物語」なのです。(文・川野先生)

公認心理師資格について  
公認心理師資格取得を希望する心理学コース生から10名程度が選抜され、プログラム履修者が決定します。学部卒業後に所定の単位を修得するほか、学部卒業後、大学院に進学するか、2年以上の実務経験を積む必要があります。